

6. 安倍首相の談話から急遽2月28日に、3月2日からの公立小中学校の臨時休校が決まってから、5月25日からの分散登校による授業が再開され、一昨日の6月8日から通常授業に戻るまで約3か月近い休校がありました。コロナ感染症の拡大を防ぎ子どもの命を守るためとはいえ、学年末で多くの仕事を抱えていた学校現場は大変なことだったと思います。同時に教育委員会のご苦労も多かったことと推察いたします。8日からは給食もスタートし、クラブ活動は15日から再開され、学校現場にも日常が戻ってきますが、かつての日常ではなくコロナと共存した新たな日常であり、感染のリスクと隣り合わせであることを強く意識しておかなければいけません。

そこでお聞きいたします。

第一に、学校から集団感染者を出さない

2006 第 2 回 定例会 個人質問

ための方策についてであります。北九州市では5月22日まで23日間連続で新規感染者ゼロでしたが、第2波では23日より16日連続で計140名の新規感染者が出ており、小学校でも集団感染が発生しました。東大阪市でも第2波をどれだけ小さくできるのか、が問われています。

学校現場で学校再開マニュアルは作られているのか、それをどう周知徹底するのか、またまた感染予防のために学校現場に新しい生活様式をどのように取り入れようとしているのか、お答えください。

第二に、長期の休校に伴う心身の問題、学習保障についてです。国立成育医療研究センターの7歳～17歳までのアンケート調査によると、長期の休校で「すぐにイライラする」「最近集中できない」「寝付けない」などが多く回答され、心身への影響が

2006 第 2 回 定例会 個人質問

懸念されるところです。また日本小児科学会でも、長期の休校で子どもに起こっている問題として、生活習慣の乱れや運動不足、教育の遅れなどを指摘しています。

長期の休校の間、教育委員会として、どのような取り組みをしていたのか。また今後心身の問題や、学習の遅れをどのようにして取り組むおつもりか、お答えください。